

■旅行年報2012 最新刊

直近一年間の旅行・観光市場にまつわるあらゆる出来事について、数多くのデータ資料を基に分析。日本人の国内・海外旅行、外国人の訪日旅行、観光産業、国内観光地、観光政策など、さまざまな角度から旅行・観光市場の現状を望める一冊。二〇一二年九月発行。



■旅行者動向2012 最新刊

最新の旅行の実態や旅行者の意識に関する全国アンケート調査結果を、当財団独自のさまざまな切り口で分析。グラフや図表を多用して分かりやすく解説。政策立案や事業展開などに幅広く活用できるマーケティングデータ集。二〇一二年十月発行。



■観光実践講座 講義録 最新刊

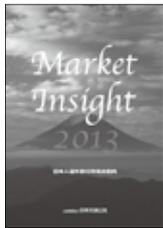
人を活かし、まちを活かす観光の考え方
「見えない価値を見せる『まち歩き』の実践

毎年十一月に当財団が主催している二日間の講座講義録。今回は各地で人気の「まち歩き」に着目。「長崎さるく博」総合プロデューサーで「大阪あそび歩」の仕掛け人、茶谷幸治氏が、人を活かし、まちを活かす「まち歩き」の思想と哲学を熱く語ったほか、各地の事例から実践的なノウハウも多数。また六月開催の基礎講座より、榎四万十ドラマの畦地履正社長の基調講演も収録。二〇一三年三月発行。



■Market Insight 2013

(日本人海外旅行市場の動向) 近刊
日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要因を詳細に解説したレポート。二〇一二年の最新市場動向をカバー。当財団の独自調査を基に、変化の下に働く中・長期的ダイナミズムを明らかにしています。日本語版、英語版あり。二〇一三年七月中旬発行。



※当財団出版物のご注文はホームページからお願ひします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光文化事業部
電話 03-52251507 http://www.jtb.or.jp

次号予告

●アジア圏からのFIT(個人旅行の外国人客)を、わが国の大都市圏以外の地域に呼び込むにはどのような可能性があるでしょうか。それを実現するための工夫とは何なのか、地域にふさわしい誘致施策の在り方をテーマにして、旅行者が発発する発地および旅行者が到着する受地、両サイドの視点から考察します。

当財団からのお知らせ

「シンポジウム・セミナー開催のご案内」

●第4回海外旅行マーケットセミナー in 大阪
二〇一三年八月六日(火)
会場：大阪市立難波市民学習センター 講堂 (OCATビル4階)

最新の旅行マーケットの動向とその背景をオリジナルの分析で読み解きます。今年のテーマ討論では改めてシテ層を取り上げ、団塊世代の後の市場がどのように変化していくか議論します。詳しくはホームページをご覧ください。http://www.jtb.or.jp/

「研究員コラムの紹介」(二〇一三年三月～二〇一三年五月)

行く先々で見て触れて、そして地元の人たちと語り、感じたこと。世相のなかに見た観光の未来像など、各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した三ヶ月分をご紹介します。

- 187 地域のお宝「地域資源」を探す方法 (高橋葉子)
- 188 びとらるびき むらびき (中島 泰)
- 189 戦前・戦後の観光計画から学ぶ (中野文彦)
- 190 音楽体験と旅行体験の「回性」・ライブ性 (堀木美告)
- 191 日本人観光客は乗り継ぎ旅行を好まない? (牧野博明)
- 192 原因は歩下がつて俯瞰しないとわからない (山田雄一)

当財団ホームページURL http://www.jtb.or.jp/ 研究員コラムで検索

編集後記

◆人間誰しも毎年一つずつ年を重ねています。これは自然の摂理であり、若いも若きも条件は一緒です。人口構造はピラミッド型が理想的といわれてきましたが、今では崩壊し、釣り鐘型で胴の中ほどが膨らんだ形になっています。膨らみが年々上のほうにずれていき、いずれ逆三角形になる日がくるのでしょうか。

◆一九四七～四九(昭和二十～二十四)年生まれば、団塊、団塊世代といわれ、受験はもろろん組織内でも競争しながら生きてきました。同志や競争相手であった人々が定年を迎えると、潜在力のあるシテ層は消費の中核的な存在とされ、購買層のターゲットとして期待されてきました。

◆そもそも日本の人口が団塊世代を含めて全体的にシテ化していることを認識し、社会や消費マーケットを見るべきである特集で示唆されています。消費社会における団塊世代の位置付けが世間で予想されていたものとは異なっていたのではないかと確認することができました。

◆アクティブなシテが実際にどれほど存在するか、これからの消費をリードしていくのか。そうではないかもしれない、錯覚してはいけないのではないかと旅行市場におけるシテ層の実態と、それに対する旅行会社の見方も、興味ある内容でした。状況を冷静に見るのはいつか、今かもしれない。戦後の団塊世代のような人口増現象は今後起こらないことを前提にしてマーケットを捉えることが肝要であることにも気づかされました。(片桐)

観光文化編集室メールアドレス:
kankouunka@jtb.or.jp